

<資料>

## 長野県中学校技術科教員の情報モラル教育実態調査

佐久未佳 信州大学大学院教育学研究科

西 正明 信州大学学術研究院教育学系

### A Survey on Information Moral Education by Technology Teachers at Junior High Schools in Nagano Prefecture

SAKYU Mika: Graduate School of Education, Shinshu University

NISHI Masaaki: Institute of Education, Shinshu University

In order to develop teaching materials for technology education and to improve information moral education, it is vital to grasp the current situation of information moral education. From March 10, 2017 to May 1, 2017, we conducted a survey on information moral education to technology teachers at junior high schools in Nagano Prefecture. In this paper, we reported the conditions and problems of information moral education which were identified by the investigation.

【キーワード】 技術科教育 情報モラル アンケート

#### 1. はじめに

平成33年度に全面実施される平成30年度中学校学習指導要領<sup>[1]</sup>の技術・家庭における技術分野では情報モラル教育に関する記述がある。この情報モラル教育に対応する教材を開発するため、現在の中学校技術・家庭科技術分野（以下、中学校技術科）で行われている情報モラル教育の実態を把握したい。そこで中学校技術科を指導する長野県内の教員を対象に、2017年3月10日から5月1日までの期間で、技術科で取り扱う情報モラル教育に関するアンケート調査を行った。本稿では、調査の結果明らかになった現在の長野県内の中学校技術科教員の情報モラル教育に対する実態と課題を報告する。

#### 2. 研究の背景

中学校技術科による情報モラル教育は中学校における情報モラル教育において非常に重要である。国立教育政策研究所が2011年3月に提示した「情報モラル教育実践ガイダンス」<sup>[2]</sup>では「情報モラル指導カリキュラム」として46の指導事項が示されている。46の指導事項の中で、中学校で指導すべき項目は15事項であり、さらに学習指導要領に指導内容として記載されている教科として中学校技術科を挙げている項目は12事項ある。また、残り3事項に関しても学習指導要領解説に指導内容として、例示されている教科、あ

るいは関連する内容として指導することが可能な教科等として中学校技術科が挙げられている。

そうした中で、2017年3月に告示された平成30年度中学校学習指導要領の技術・家庭技術分野では情報モラルについて「情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と、情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解すること」という記述が見られる。すなわち中学校技術科における情報モラル教育では、生徒が技術の仕組みと情報モラルの必要性を理解することが重要である。そのため、教員は情報技術に対する十分な知識を持ち、この知識と関連付けながら、生徒が情報モラルの必要性を理解できるような授業展開を行わなくてはならない。情報モラル教育の授業展開については、「教育の情報化の手引き」<sup>[3]</sup>で述べられている。「情報モラル指導のための具体的な学習活動について、一方的に知識や対処法を教えるのではなく、児童生徒が自ら考える活動を重視している」ことから、説明だけではなく協働的な学習活動や体験的な学習活動を取り入れるべきである。

しかし、現在の中学校技術科教員が情報技術に対する知識を持ちながら、協働的な学習活動や体験的な学習活動を取り入れることができているかは不明である。そこでアンケートを通じて長野県内の中学校技術科教員の情報モラル教育の実態を把握する必要がある、もし課題を抱えている場合は、教材や指導法で対策を講じる必要があると考えた。

### 3. 方法

長野県内の中学校技術科教員に対してアンケート調査を行った。アンケートはwebページ上で回答できるアンケートシステムを使用している。

#### 3.1 アンケート設問

今回のアンケートでは、中学校技術科における情報モラル教育を「情報セキュリティ」「情報技術と情報社会の特性と安全」「情報に関する権利と法律」の3つの領域に分類する。この領域は、情報モラル指導カリキュラムの構成と平成20年度中学校学習指導要領<sup>[4]</sup>の技術・家庭における技術分野を基に作成した。情報モラル指導カリキュラムは「心を磨く領域」と「知恵を磨く領域」の2つの領域で構成されている。「心を磨く領域」は、中学校技術科の学習指導要領においてD(1)ウ「著作権や発信した情報に対する責任と情報モラル」があてはまると情報モラル指導カリキュラム上で示されている。よって、この領域を「情報に関する権利と法律」とした。また、「知恵を磨く領域」は「情報セキュリティ」と「安全への知恵」の2つに分かれている。「情報セキュリティ」は現行中学校技術科学習指導要領のD(1)イ「情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組み」があてはまる。「安全への知恵」はD(1)ア「コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組み」、D(1)エ「情報に関する技術の適切な評価・活用」、D(2)ア「メディアの特徴と利用方法、制作品の設計」の内容の取扱い「使用するメディアに応じて、個人情報の保護の必要性についても扱うこと」があてはまる。今回のアンケート設問は「情報セキュリティ」と「安全への知恵」の前者を「情報セキュリティ」、後者を「情報技術と情報社会

の特性と安全」として領域を分けた。

各領域の内容は、情報モラル指導カリキュラムを基にしている。「情報に関する権利と法律」は、著作権や産業財産権・人格権といった「他者の権利や知的財産権を尊重し、情報社会において責任ある態度で臨み義務を果たさなければならないこと」や個人情報保護法などの「情報に関する法律や契約について理解し適切に行動する態度」を学ぶ領域である。「情報セキュリティ」は、ID・パスワードなどの個人認証やフィルタリング、ウイルスチェック、情報の暗号化などの「情報セキュリティの基礎的な知識を身につけ、セキュリティ対策のたて方」を学ぶ領域である。「情報社会の特性と安全」は、インターネットの特性（情報の検索性・信頼性・公共性など）といった「情報社会の特質を意識しながら安全に行動する態度」や「自他の安全や健康に配慮した情報メディアとのかかわり方」を学ぶ領域である。

今回のアンケートでは、領域ごとに「教員の知識・技能」「授業の成果」「学習活動」について評価してもらった。評価方法は、各設問に対して五件法（「そう思う」「少しそう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「思わない」）で尋ね、いずれか一つを選択してもらった。最も肯定的な回答を5、最も否定的な回答を1として評価した。表1で「教員の知識・技能」「授業の成果」「学習活動」にそれぞれ類するアンケートの設問を示す。「教員の知識・技能」では情報モラルに関する情報技術の知識・技能を教員自身が持っているかについて評価する。それを問うために「自分は中学生に教えるために必要な知識を持っている」、「自分にとって専門的で中学生に教えるのは難しい」という設問を設けた。「授業の成果」では教員の授業が生徒にとってどのような授業であったかについて評価する。それを問うために「生徒は必要な知識・技能を身につけることができた」、「生徒の学習に十分な時間を確保できた」、「現代の情報社会に役立つ授業内容だった」という設問を設けた。「学習活動」では教員が授業内で行った授業の学習活動について評価する。説明だけの授業ではなく、協働的・体験的な学習活動を取り入れることができていたかを尋ねるために、「生徒は授業内に協働的な学習活動を行った」、「生徒は授業内に体験的な学習活動を行った」という設問を設けた。

表1 「教員の知識・技能」「授業の成果」「学習活動」の区分とアンケート設問

区分	設問
教員の知識・技能	中学生に教えるために必要な知識を持っている
	専門的で中学生に教えるのは難しい
授業の成果	生徒は必要な知識・技能を身につけることができた
	生徒の学習に十分な時間を確保できた
	現代の情報社会に役立つ授業内容だった
学習活動	生徒は授業内に協働的な学習活動を行った
	生徒は授業内に体験的な学習活動を行った

### 3.2 調査方法

今回のアンケート対象は長野県内の中学校技術科であり、広い地域に渡る調査だったた

め、web ページ上で回答することができるアンケートシステムを採用した。このアンケートシステムは本研究室で開発されたものである。アンケートの回答依頼文の配信を長野県技術・家庭科研究会に依頼して、アンケートシステムの web ページの URL を中学校技術科教員に知らせ、アンケート協力を呼びかけて頂いた。

### 3.3 分析方法

評価の傾向を把握するため、全設問に対する回答を肯定的意見（「そう思う」「少しそう思う」）と否定的意見（「あまり思わない」「思わない」）に分け二項検定を行う。肯定的意見・否定的意見の偏りを見るために、中立的意見（「どちらでもない」）は今回の分析では排除した。また、年代で回答の傾向が変わるか確認するために 20～30 代の回答と 40～60 代の回答に分け、設問ごとに t 検定を行う。さらに設問ごとの関連性があるか確認するために、相関係数を導き分析を行う。

## 4. 結果と考察

アンケートには、長野県中学校技術科教員の 47 名から回答が得られた。アンケートの結果と考察は以下の通りである。

### 4.1 評価の傾向

各領域に共通して、「自分は中学生に教えるために必要な知識を持っている」、「自分の授業で生徒は必要な知識・技能を身に付けることができた」、「自分の授業は現代の情報社会に役立つ内容だった」といった設問は肯定的な回答の数が有意に多かった。これにより、中学校技術科における情報モラル教育で必要な「教員自身の知識・技能」や「授業の成果」は一定のレベルに達していると考えられる。

しかし、「協働的な学習活動を行った」、「体験的な学習活動を行った」といった「学習活動」に関する設問では、表 2 で示す通り、各領域に共通して否定的な回答数が肯定的な回答数より多かった。特に「情報セキュリティ」の領域では「協働的な学習活動を行った」という設問に対して否定的な回答数が有意に多く、「体験的な学習活動を行った」という設問に対して否定的な回答数が多い傾向が確認された。また「情報技術・情報社会の特性と安全」の領域では、「体験的な学習活動を行った」の設問に対し否定的な回答数が多い傾向が見られた。

表 2 3 領域での「学習活動」に対する評価

設問	領域	回答数		二項検定
		肯定的	否定的	p値(両側)
協働的	情報セキュリティ	9	25	0.009 **
	情報技術と情報社会の特性と安全	14	23	0.187 n.s.
	情報に関する権利と法律	14	22	0.243 n.s.
体験的	情報セキュリティ	13	25	0.073 +
	情報技術と情報社会の特性と安全	12	23	0.089 +
	情報に関する権利と法律	12	22	0.121 n.s.

n.s.: 非有意, +: 有意傾向(p<0.1), \*: p<0.05, \*\*: p<0.01

## 4.2 年代の比較

年代での比較を対応の無いt検定で行い、有意に差があることを確認できた設問を表3に示す。「情報セキュリティ」の領域において「自分は中学生に教えるために必要な知識を持っている」「自分にとって専門的で中学生に教えるのは難しい」の設問には有意に差があった。また、「情報技術と情報社会の特性と安全」の領域において「生徒は授業内に体験的な学習活動を行った」の設問には有意に差があり、「生徒の学習に十分な時間を確保できた」「生徒は授業内に協働的な学習活動を行った」の設問には差がある傾向を確認した。「情報に関する権利と法律」の領域において「自分にとって専門的で中学生に教えるのは難しい」の設問に有意に差があった。

「有意に差がある」あるいは「差がある傾向がみられる」と評価された設問での共通することは、教員自身の知識とそれに対する自信については40～60代の方が肯定的回答が多く、体験的・協働的な授業活動を行ったことについては20～30代の方が肯定的回答が多い、という点である。すなわち、20～30代の教員の課題は教員自身の知識やその知識に対する自信であり、40～60代の教員の課題は授業展開の工夫であると言える。

表3 年代別の比較により有意差が確認できた設問

領域	設問	20～30代(N=25)		40～60代(N=22)		t検定	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	t値	p値(両側)
情報セキュリティ	中学生に教えるために必要な知識を持っている	3.64	1.11	4.32	0.84	-2.332	0.024 *
	専門的で中学生に教えるのは難しい	3.00	1.19	2.36	0.90	2.043	0.047 *
情報技術と情報社会の特性と安全	生徒の学習に十分な時間を確保できた	3.44	1.26	2.77	0.97	2.010	0.050 +
	生徒は授業内に協働的な学習活動を行った	3.00	1.12	2.41	1.18	1.761	0.085 +
	生徒は授業内に体験的な学習活動を行った	2.84	1.14	2.14	1.17	2.085	0.043 *
情報に関する権利と法律	専門的で中学生に教えるのは難しい	3.36	1.11	2.50	1.06	2.704	0.010 *

+:p<0.1, \*:p<0.05, \*\*:p<0.01

## 4.3 設問ごとの相関

設問ごとに関連性があるか確認するために、ピアソンの相関係数を求めた。表4では「情報セキュリティ」の相関係数、表5では「情報技術・情報社会の特性と安全」の相関係数、表6では「情報に関する権利と法律」の相関係数を示している。これらの表から、「情報セキュリティ」、「情報技術・情報社会の特性と安全」、「情報に関する権利と法律」の各領域で評価する「教員の知識・技能」、「授業の成果」、「学習活動」はそれぞれ区分された設問同士で関連し合っていることが確認できた。また各領域で「生徒は知識・技能を身に付けることができた」の設問に関連している設問に違いがある。「情報セキュリティ」は、「自分は中学生に教えるために必要な知識を持っている」、「自分にとって専門的で中学生に教えるのは難しい」といった「教員の知識・技能」に関わる設問が生徒の知識・技能に関連している。「情報技術・情報社会の特性と安全」は「生徒は授業内に協働的な学習活動を行った」、「生徒は授業内に体験的な学習活動を行った」といった「学習活動」に関わる設問が生徒の知識・技能と関連しており、「情報に関する権利と法律」は「教員の知識・技能」と「学習活動」に関わる設問と、生徒の知識・技能との関

連性が認められなかった。

このことから、「情報セキュリティ」の領域では教員が知識を持つこと、「情報技術・情報社会の特性と安全」の領域では協働的・体験的な学習活動を行うことが、生徒の知識・技能に結び付くと教員は考えていることが分かった。それに対し「情報に関する権利と法律」の領域では「教員が知識を持つこと」あるいは「協働的・体験的な学習活動を行うこと」は生徒の知識・技能には結びつかない。しかし「教員が知識を持つこと」と「協働的・体験的・学習活動を行うこと」が、どちらも肯定的な回答者の内、92.3%（13人中12人）は「生徒は知識・技能を身に付けることができた」に対して肯定的な回答をしている。すなわち「教員が知識を持つこと」と「協働的・体験的・学習活動を行うこと」を複合することで、生徒の知識・技能に結び付くと教員は考えていると言える。

表4 「情報セキュリティ」の評価の相関係数

設問		A1	A2	B1	B2	B3	C1
教員の知識・技能	中学生に教えるために必要な知識を持っている(A1)	1	-	-	-	-	-
	専門的で中学生に教えるのは難しい(A2)	-0.542 **	1	-	-	-	-
授業の成果	生徒は必要な知識・技能を身に付けることができた(B1)	0.456 **	-0.318 *	1	-	-	-
	生徒の学習に十分な時間を確保できた(B2)	0.355 *	-0.382 **	0.658 **	1	-	-
	現代の情報社会に役立つ授業内容だった(B3)	0.639 **	-0.481 **	0.668 **	0.530	1	-
学習活動	生徒は授業内に協働的な学習活動を行った(C1)	-0.054	0.025	-0.057	0.018	0.126	1
	生徒は授業内に体験的な学習活動を行った(C2)	0.203	0.262	0.176	0.129	0.120	0.532 **

\*: p<0.05, \*\*: p<0.01

表5 「情報技術・情報社会の特性と安全」の評価の相関係数

設問		A1	A2	B1	B2	B3	C1
教員の知識・技能	中学生に教えるために必要な知識を持っている(A1)	1	-	-	-	-	-
	専門的で中学生に教えるのは難しい(A2)	-0.352 *	1	-	-	-	-
授業の成果	生徒は必要な知識・技能を身に付けることができた(B1)	0.461 **	-0.335 *	1	-	-	-
	生徒の学習に十分な時間を確保できた(B2)	0.241	-0.215	0.517 **	1	-	-
	現代の情報社会に役立つ授業内容だった(B3)	0.540 **	-0.286	0.362 *	0.383 **	1	-
学習活動	生徒は授業内に協働的な学習活動を行った(C1)	0.203	-0.101	0.390 **	0.563 **	0.383 **	1
	生徒は授業内に体験的な学習活動を行った(C2)	0.213	-0.097	0.424 **	0.542 **	0.291 *	0.676 **

\*: p<0.05, \*\*: p<0.01

表6 「情報に関する権利と法律」の評価の相関係数

設問		A1	A2	B1	B2	B3	C1
教員の知識・技能	中学生に教えるために必要な知識を持っている(A1)	1	-	-	-	-	-
	専門的で中学生に教えるのは難しい(A2)	-0.461 **	1	-	-	-	-
授業の成果	生徒は必要な知識・技能を身に付けることができた(B1)	0.269	0.024	1	-	-	-
	生徒の学習に十分な時間を確保できた(B2)	0.220	0.054	0.659 **	1	-	-
	現代の情報社会に役立つ授業内容だった(B3)	0.314 *	-0.175	0.510 **	0.439 **	1	-
学習活動	生徒は授業内に協働的な学習活動を行った(C1)	0.105	-0.158	0.178	0.384 **	0.378 **	1
	生徒は授業内に体験的な学習活動を行った(C2)	0.084	-0.127	0.148	0.364 *	0.316 *	0.826 **

\*: p<0.05, \*\*: p<0.01

## 5. おわりに

今回のアンケート調査により、「長野県内の中学校技術科教員が情報技術に対する知識を持ちながら、協働的な学習活動や体験的な学習活動を取り入れる情報モラル教育を行う」ために解決すべき課題を3点見出すことができた。1点目は「学習活動が協働的・体験的でない授業が多い」という点である。特に「情報セキュリティ」の領域は、知識を吸収す

るだけの授業で構成されている傾向がある。2点目は「年代によって情報技術の知識や学習活動への意識に差が見られる」という点である。20～30代は情報モラルに関わる情報技術の知識について自信をもつこと、40～60代の教員は協働的・体験的な学習活動を授業に盛り込む意欲をもつことが課題となる。3点目は「情報セキュリティ」と「情報技術・情報社会の特性と安全」の領域において、「生徒が知識・技能を身につけるために、教員の知識あるいは協働的・体験的な学習活動を向上させればよいと認識している」という点である。そのため、「情報セキュリティ」では知識を吸収するだけの授業、「情報技術・情報社会の特性と安全」の領域では協働的・体験的な活動だけを行う授業を展開してしまうと考えられる。

以上の課題を解決するために必要な教材は、確かな情報技術の知識に基づいた協働的・体験的な学習活動を授業に取り込むことができる教材である。また、教員自身が自分の力量に合わせて教材を選択出来るようなシステムも必要であると考えられる。

## 謝辞

本稿作成にあたり、長野県技術・家庭科研究会の皆様には調査に協力していただき、ここに感謝の意を表します。

## 文献

- [1] 文部科学省, 2017, 平成29年3月告示中学校学習指導要領, pp.117-121
- [2] 文部科学省, 国立教育政策研究所, 2011, 情報モラル教育実践ガイド, pp.1-6
- [3] 文部科学省, 2010, 教育の情報化に関する手引き, p.123
- [4] 文部科学省, 2008, 平成20年度中学校学習指導要領, pp.85-87

## 資料 アンケート回答画面

### 中学校情報モラル教育アンケート

長野県中学校技術科教員の皆様、信州大学大学院教育学研究科の佐久未佳と申します。

この度中学校の「情報モラル教育」に関する研究を進めるにあたり先生方からアンケートを集めております。お手数をおかけしますがアンケートにご協力頂けると幸いです。

- アンケートの所要時間は10分程度になります。
- 回答の締め切りは5月1日（月）までとさせていただきます。
- アンケートの集計結果は、平成29年9月1日（金）以降に、下記で閲覧できるようにします。  
<http://chappy.shinshu-u.ac.jp/questionnaire/ank30/kekka.htm>

※尚、今回ご回答いただいた内容については本研究でのみ利用し、それ以外の目的で利用することはありません。

\*\*\*\*\*

[1]各項目であなたにあてはまる選択肢にチェックしてください

設問1 性別

- 男  女

設問2 年齢

- 10代  20代  30代  40代  50代  60代

設問3 中学校技術科教員歴

- 10年以下  11～20年  21～30年  31～40年  41年以上

[2]以下では、中学校技術科で教える情報モラルに関わる知識・技能をお伺いします。

※中学校技術科で教える情報モラルを3つに大別しています。

- 情報セキュリティ…パスワード、ファイアウォール、暗号化など
- 情報技術と情報社会の特性と安全…インターネットの特性、個人情報、情報メディアなど
- 情報に関する権利と法律…知的財産権、人格権など

(1) 「情報セキュリティ」の知識・技能についてあなたはどのように思いますか。

設問4～7のあてはまる評価にチェックをしてください

設問4 中学生に必要な知識・技能である

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問5 生徒が将来必要になる知識・技能である

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問6 自分は中学生に教えるために必要な知識を持っている

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問7 自分にとって専門的で中学生に教えるのは難しい

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問8 今年度あなたが行った授業で「情報セキュリティ」に関してどんな知識・技能を取り扱いましたか。

あてはまる項目にチェックをしてください。(複数回答可)

- 認証システム(ユーザID・パスワード)
- ウイルス対策ソフトウェア
- ファイアウォール・フィルタリング
- データの暗号化
- バックアップ
- 情報セキュリティに関するトラブル事例・犯罪事例
- 情報セキュリティに関するトラブルに対する対策法・解決法
- その他
- 特になし

今年度あなたが行った「情報セキュリティ」の授業についてどう思いますか。

設問9～13のあてはまる評価にチェックをしてください。

設問9 生徒は必要な知識・技能を身につけることができた

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問10 生徒の学習に十分な時間を確保できた

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問11 現代の情報社会に役立つ授業内容だった

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない



設問12 生徒は授業内に協働的な学習活動を行った

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問13 生徒は授業内に体験的な学習活動を行った

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

(2) 「情報技術と情報社会の特性と安全」の知識・技能についてあなたはどのように思いますか。

設問14～17のあてはまる評価にチェックをしてください。

設問14 中学生に必要な知識・技能である

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問15 生徒が将来必要になる知識・技能である

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問16 自分は中学生に教えるために必要な知識を持っている

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問17 自分にとって専門的で中学生に教えるのは難しい

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問18 今年度あなたが行った授業で「情報技術と情報社会の特性と安全」に関してどんな知識・技能を取り扱いましたか。 あてはまる項目にチェックをしてください。(複数回答可)

- インターネットの特性(情報の検索性・信頼性・公共性など)  
 個人情報の取り扱い  
 情報メディア(SNS・動画サイトなど)との関わり方  
 インターネットの特性・個人情報・情報メディアに関わるトラブル事例・犯罪事例  
 インターネットの特性・個人情報・情報メディアに関わるトラブルに対する対策法・解決法  
 その他  
 特になし

今年度あなたが行った「情報技術と情報社会の特性と安全」の授業についてどう思いますか。

設問19～23のあてはまる評価にチェックしてください。

設問19 生徒に必要な知識・技能を身につけることができた

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問20 生徒の学習に十分な時間を確保できた

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問21 現代の情報社会に役立つ授業内容だった

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問22 生徒は授業内に協働的な学習活動を行った

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問23 生徒は授業内に体験的な学習活動を行った

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

(3) 「情報に関する権利と法律」の知識についてあなたはどのように思いますか。

設問24～27のあてはまる評価にチェックしてください。

設問24 中学生に必要な知識・技能である

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問25 生徒が将来必要になる知識・技能である

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問26 自分は中学生に教えるために必要な知識を持っている

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問27 自分にとって専門的で中学生に教えるのは難しい

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問28 今年度あなたが行った授業で「情報に関する権利と法律」に関してどんな知識を取り扱いましたか。  
あてはまる項目にチェックをしてください。（複数回答可）

- 著作権  
 産業財産権  
 人格権（肖像権・プライバシー権・パブリシティ権）  
 個人情報保護法  
 プライバシーマーク  
 契約行為の基本的な考え方・契約に伴う責任  
 情報に関する権利と法律を侵害するトラブル事例・犯罪事例  
 情報に関する権利と法律を侵害するトラブルに対しての対策法・解決法  
 その他  
 特になし

今年度あなたが行った「情報に関する権利と法律」の授業についてどう思いますか。  
設問29～33のあてはまる評価にチェックをしてください。

設問29 生徒は必要な知識・技能を身につけることができた

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問30 生徒の学習に十分な時間を確保できた

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問31 現代の情報社会に役立つ授業内容だった

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問32 生徒は授業内に協働的な学習活動を行った

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

設問33 生徒は授業内に体験的な学習活動を行った

- そう思う  少しそう思う  どちらでもない  あまり思わない  思わない

[3] 情報モラルの授業に関わって使用した教材があれば、製作者・会社、教材名、教材概要を記入欄にお書きください。

（例）日本教育情報化振興会、「ネット社会の歩き方（Webサイトの情報を活用しよう）」、検索サイトの種類や信用できる情報の探し方について説明する動画

設問34 情報セキュリティ

記入欄

設問35 情報技術と情報社会の特性と安全

記入欄

設問36 情報に関する権利と法律

記入欄

送信ボタンをクリックして終了です。 ご協力ありがとうございました

(2017年8月21日 受付)